

平成26年4月26日(土)に、第5次枚方市総合計画の策定に向けて、「第7回枚方市まちづくりワークショップ」を開催しました。

第7回は市民等21名の参加で、4つの班に分かれて「枚方市の魅力発信(特色・セールスポイント)」をテーマに話し合い、様々な意見・提案が出されました。

【当日の流れ】

- ◇前回のワークショップだよりの確認
- ◇ワークショップの進め方の説明
- ◇ワークショップ(班別)
 - テーマ「枚方市の魅力発信(特色・セールスポイント)」
 - ・班ごとに意見を出し合う
 - ・各班の発表を行い、全体で共有する
- ◇今後の進め方の確認



※左からA班、B班、C班、D班のワークショップのようす

各班から出された主な意見【テーマ「枚方市の魅力発信(特色・セールスポイント)」】

○福祉の充実したまち

今後、より高齢化が進んでいく中で、高齢者に対する福祉のほか、障害者など誰にでもやさしいまちであるべきで、枚方市が福祉のまちと言われるようになるべきとの意見が出されました。

○子育て・教育が充実したまち

少子高齢化が進む中、子どもを安心して産み育てられ、教育に強いまちであるべきで、小中学生への自然教育や障害をもつ子どもへの教育を大切にしていくとともに、誰もが生涯、生きがいをもって学べるまちとして発信していくべきとの意見が出されました。

○健やかに暮らせるまち

枚方市の特徴である「医療施設や医療系大学」を活用しながら、健康寿命を延ばす取り組みを進めるなど、健やかに暮らせるまちとして特徴をつくっていくべきであるとの意見がありました。

○歴史・文化芸術のまち

恵まれた市内の歴史遺産などを生かし、他市の人を訪れる観光名所のほか、市の花“菊”をよりPRしていくこと、また、子どもたちに枚方市の歴史を伝えていくことなどにより、歴史・文化芸術のまちとして発信していくべきであるとの意見が出されました。

○世代間交流や地域連携が活発なまち

枚方市の特徴である「学生のまち」を生かし、地域と大学の連携など高齢者から若い世代までの世代間交流が活発になされ、校区コミュニティなどの活動が活発なまちと言われるようになるべきとの意見がありました。

○住みたいまち・住みやすいまち

枚方市の特徴である「多様性があり、全体的にバランスが良いこと」を生かしながら、豊かな自然、安全安心、交通の利便性など様々な分野で総合的に取り組むとともに、市のまちづくりに対し市民からの提案が生かされる機会を充実していくことなどにより、「住みたい・住みやすいまち」を発信していくべきとの意見が出されました。

～枚方市の魅力を知る・伝え広めるために～

枚方市の魅力をより効果的に発信していくためには、淀川や里山など地域に応じたブランドづくり、歴史遺産や菊などの観光の目玉づくりのほか、市の広報紙の充実やポータルサイトの立ち上げ、WEB・SNS等の活用により市民からの情報を活用することなどが有効との意見が出された。

次のページより、各班(A、B、C、D班)で出された意見・提案内容の詳細です。

A 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」		「知る、伝え広めるために必要なこと」
魅力的なまち *様々な方向性がある *他市から見て魅力がある	[磨いたほうがいいこと]	[不足していること] *商業が衰退している	
世代間交流が活発なまち *6 大学があつて若者が多いのに交流ができていない	*6 大学との連携 *大学生は老人と接点をもちたいと思っている *大学生が大阪市内や京都に就職しても枚方に住み続けるように *津田サイエンスヒルズでは企業誘致を進める	*中高年（働く世代）同士の交流ができていない *30～50 歳代の地域活動 *子どもと老人の交流はあるが地域だけの狭い範囲の交流になっている *幼稚園児と小中高生の交流がなくなってきている *いろいろな企業団地があるが活かせていない	○行政、校区コミュニティ、6 大学でまちづくり協定を *個々の取り組みを支える、大きな枠組をまず報道発表すればインパクトもあるしその後も動きやすい *1 つのモデルがあれば、他に伝播する *大学生が地元で就職し住み続けてもらう ○ネームバリューのあるものを広告媒体にして相乗効果をねらう *ひらパーやくずはモールなど
福祉の充実したまち *高齢者、子育ての福祉が重要	*福祉産業など良い雇用条件を整え、産業としての福祉を充実すべき *障害者に手厚いまちと聞いている *昔の枚方は「24 時間ヘルプ」とうたわれた	*多くの方が認知症に理解がない *孤独死をなくすシステムづくり	○広報ひらかたの活用 *広報ひらかたについてポイントをしぼり、福祉版を別に発行する（保存版タイプ） ○淀川または里山など地域によってブランドイメージづくり
多様性のあるまち *なんでもあるまちで、川や山もあり、市民活動も活発	*市民発信の活動がある（実はいろんな活動がある） *住民からあがってくる活動が多い	*情報発信（いろんなことがなかなか知られていない） *若者はネットで情報を取得するが、目的の情報しか目にしない	○行政は豊かな発想で *茨木市は総合計画づくりで 2,000 人に招待状を送り、自主活動成長グループを育成した *守りから攻めの発想に変えていく
交通の利便性がよいまち *枚方大橋南側より天野川までが常に渋滞			

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「魅力的なまち」「世代間交流が活発なまち」「福祉の充実したまち」「多様性のあるまち」「交通の利便性がよいまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 世代間交流が活発なまちに向けては、高齢者・大学生・子どもなどの連携のほか、働く世代である中高年同士の交流を進めるべきで、地域の狭い範囲だけではなく、市全体でつながる交流が進めばとの意見があった。また、大学生が卒業後も枚方に住み続けてもらえるように雇用面での対策も必要との意見が出された。
- 福祉の充実したまちについては、福祉産業で働いている雇用条件を整え、枚方市で福祉に取り組みたいと思えるようにすることや、孤独死をなくす体制をつくるべきとの意見があった。
- 多様性のあるまちについては、川や山もあり、市民活動が活発であることなどが十分に知られておらず、より情報発信を行うべきとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、個々の取り組みを支える大きな枠組みとして、行政・校区コミュニティ・6 大学で協定を結び、インパクトのあるモデルとして発信することや、広報ひらかた福祉版の発行などの効果的な活用、淀川や里山など地域に応じたブランドづくりなどを進めるべきとの意見が出された。

B 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
<p>教育活動に強いまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *学校版環境マネジメントの運用 *障害者教育制度 *枚方テーゼ 	<ul style="list-style-type: none"> *差別に対して敏感な風土がある（地域の子は地域でとの考えのもと、障害のある子たちの支援学校が設置されなかったことなど） 	<ul style="list-style-type: none"> ○子どもに枚方の歴史を教える <ul style="list-style-type: none"> *枚方の良さをもっと子どもに伝えていく ○歴史を中心とした観光の目玉づくり（掘り起こし） <ul style="list-style-type: none"> *ターゲットをしばったもの。例えば歴史に興味がある人に“おもしろい”と思わせるものなど *観光案内所などによるアピール
<p>余裕をもって住める</p> <ul style="list-style-type: none"> *「安全・安心」「産んで育てやすい」「子どもからお年寄りまで気持ちよく過ごせる」等 *「心のゆとり」余裕がなければ、渋滞でイライラしたり、PTA 活動もできない。ゆとりがあれば、花の美しさにも目を向けられる。人を助けようという心や環境への配慮もできる 	<ul style="list-style-type: none"> *市民と行政の協力体制 *行政の窓口がタテ割り *行政は守りに入る。バンバン言う市民が多く、行政が守りに入りやすい *市民の考えを吸い上げる信頼関係が必要。行政と市民が話し合えるテーブルが必要 *行政の方法論に民間的発想が不足している 	<ul style="list-style-type: none"> ○マンパワーへの手助け <ul style="list-style-type: none"> *団体に所属していると情報が入りやすい *やりたいと言った人を支えてあげられるような人のつながりが必要 *大学生などの人材を有効に使う
<p>やさしいまち枚方</p> <ul style="list-style-type: none"> *人にやさしい、自然にやさしい、環境にやさしい *年齢に関係なく誰に（学生、高齢者、障害のある方や外国人など）でもやさしい。昔は福祉のまちだった 	<ul style="list-style-type: none"> *市民には、自分に何ができるかという解決力、発想、コミュニケーション力が求められる *市民と行政は両輪。行政にやってもらうだけでなく、市民も補う協働体制が重要→意識改革 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域や行政が現実を知り危機感をあおる <ul style="list-style-type: none"> *防災面や PTA 活動などにおいて、避難所運営での毛布の枚数や子どもが少ない状況について現実を知って動かすことも必要
<p>住みたいまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *総合的な魅力 *様々な分野の総合的な充実 	<ul style="list-style-type: none"> *来てくれるまち（お客さんが来るまち）より住むまち。 *来てもらって、住んでもらえるようになることよい *新たに住む人が地域の特徴を見つけにくい（コミュニティごとの違い） 	<ul style="list-style-type: none"> ○思いきった PR <ul style="list-style-type: none"> *楽しくて思わず行きたくなる「ひらパー」のような PR *テレビ、取材の効果を活用 *「ひこぼしくん」はあるが、キャラクターを作るだけでは不十分 *マラソン大会など、交野市は上手にやっている。沿道の人の温かさを伝えるような方法が効果的
<p>広がっていくまち</p> <ul style="list-style-type: none"> *人のつながりからの魅力の広がり（大学に集まった学生から「枚方はいいよ」と広がるなど） *教養とコミュニケーション 	<ul style="list-style-type: none"> *発信ができていない（枚方独自の文化、枚方にしかないもの） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひらかたのポータルサイト立ち上げ <ul style="list-style-type: none"> *正しい最新情報を提供 *市民対応窓口においても相手の立場に立っているかどうか

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「教育活動に強いまち」「余裕をもって住める」「やさしいまち枚方」「住みたいまち」「広がっていくまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 教育活動に強いまちでは、環境や歴史の学習、障害者に対する教育などの魅力を発信すべきとの意見があった。
- 余裕をもって住めるまちに関しては、心のゆとりこそが日々の安全や協力する気持ちなど、あらゆる面に影響するとの意見があった。やさしいまちについては、年齢、障害の有無、人種などに関係なく誰にでも、また、自然や環境にもやさしいまちをめざし発信していくべきとの意見があった。
- 住みたいまちに向けては、様々な分野において総合的に充実することが必要で、来てくれるまちよりも住んでもらえるまちとなるべきとの意見が出された。そのためにも、市民と行政の協力体制づくりが重要であり、行政が守りに入らず、市民の考えを吸い上げる信頼関係をつくるべきとの意見があった。
- 広がっていくまちについては、人のつながりを通じて、枚方の魅力が広がっていけばとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、子どもに枚方の歴史を教えること、防災面などの課題について地域や行政がより危機感を持つこと、観光の目玉づくり、ポータルサイトの立ち上げなどについて意見が出された。

C 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
<div data-bbox="156 331 466 385" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">“菊”のまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *枚方の特徴をひとつに！オンリーワンを育てる *菊職人が少なくなっている *小学校で菊を育てる *関心をもってもらうことが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ○菊人形の内容を再度考える（新しいアイデア） <ul style="list-style-type: none"> *アニメの菊人形でも良いのでは。若い人に注目される菊人形が必要では *菊の服（ファッションショーなど） ○菊について教える＝教育の場・カリキュラムに取り入れる（小さい頃から） <ul style="list-style-type: none"> *市全体として取り組む *菊人形の職人になりたいとの思いの芽生えにつながる。菊のグループが教えに行くなど
<div data-bbox="156 734 466 810" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-bottom: 10px;">自然豊かで住みよいまち</div> <div data-bbox="156 887 466 963" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">小中学生に自然教育を実践するまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *枚方の自然とは何か 春：桜、夏：ホタル、秋：菊、冬：とんど祭 *天野川（七夕祭）をもっとアピールする *自然工法の公園をつくる *食（農業）の問題を真剣に考え、見直す必要がある *市内には体験農業ができる場所がある。都市からの交通の利便性を活かすべき *中山間地域に農業留学→過疎化対策 	<ul style="list-style-type: none"> ○広報ひらかたを活用 <ul style="list-style-type: none"> *市民への周知 ○市の魅力につながる取り組みに参加する人材を増やす <ul style="list-style-type: none"> *取り組む人が増えると知る人も増える ○セールスポイントに関するイベントを実施し新聞報道を活用
<div data-bbox="156 1164 466 1240" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">子どもを安心して産み育てられるまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *少子高齢化をなくす。税金の使い道を少子高齢化対策に 	<ul style="list-style-type: none"> ○直接顔を見て市と話し合える場づくり（市民から行政へ） <ul style="list-style-type: none"> *市民同士のワークショップや市議会議員や市幹部との懇談・意見交換の機会など
<div data-bbox="156 1330 466 1406" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">健やかに暮らせるまち</div>	<ul style="list-style-type: none"> *自然とからめた医療。森林・癒し・ヒーリング効果 *自転車の活用（自転車走行レーンの設置） *自転車を持ち込める車両（鉄道）をつくる 	<ul style="list-style-type: none"> ○重点的な予算配分（会社感覚での予算編成） <ul style="list-style-type: none"> *ふるしきを広げず、ひとつに集中

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「菊のまち」「自然豊かで住みよいまち」「小中学生に自然教育を実践するまち」「子どもを安心して産み育てられるまち」「健やかに暮らせるまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 菊のまちについては、枚方市の特徴を“菊”の1つにしぼり、市内外の広い世代から関心をもってもらうべきとの意見が出された。
- 自然豊かで住みよい、小中学生に自然教育を実践するまちに向けては、春の桜や秋の菊などの自然をPRするとともに、体験農業など食（農業）を真剣に考える自然教育を進めるべきとの意見があった。
- 子どもを安心して育てられるまち、健やかに暮らせるまちに向けては、予算を少子高齢化対策に重点化することや、自然とからめた医療の充実、自転車による健康づくりなどの取り組みを発信すべきとの意見があった。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、菊人形に関し新しいアイデア（アニメキャラクターの菊人形、ファッションショーなど）の検討や、教育の場（カリキュラム）に菊の育成を積極的に組み入れることなどにより市全体が菊のまちと認識できるのではとの意見が出された。また、市民が市政に意見を言えるよう、行政と市民が直接顔を見て話し合える機会を増やすことが必要との意見があった。

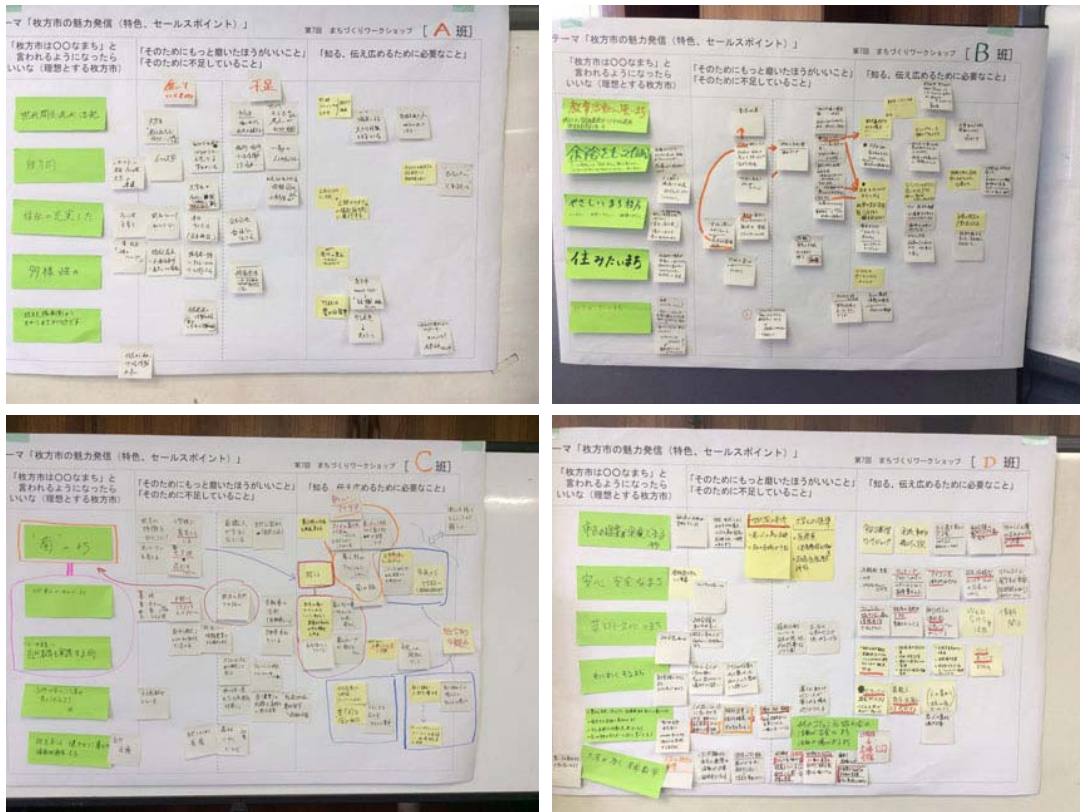
D 班

テーマ『枚方市の魅力発信（特色・セールスポイント）』

「枚方市は〇〇なまち」と言われるようになったらいいな（理想とする枚方市）	「そのためにもっと磨いたほうがいいこと・不足していること」	「知る、伝え広めるために必要なこと」
市民の提案が実現できるまち *地区・世代によってめざすところが違う *ワークショップの声が市政に反映され一体感のあるまち	*市民が声をあげられる場の充実（若い人の声など） *世代間の交流、「知」の交流 *大学との連携：医療系大学（健康寿命を延ばす取り組みなど） *先端医療産業誘致	○市民公開型ワークショップなど実践・事例の積み上げとPR *市民会館に数千人の人を集めて会議・情報交換 ○WEB、SNS等活用、情報開示 *リアルタイムの発信が重要、広報紙の充実 *市民投稿型のホームページやツイッター。ツイッターでフォローしやすいように（ホームページへのリンクではなく直接書き込めるようにする） *枚方つーしんでは月に145万PVのアクセス *アイコンを斬新的なものにする *枚方消防団のYouTubeのPRを参考に
安心・安全なまち *居住条件として重要	*コミュニティの強化	○コミュニティ協議会ごとに情報発信できるように
芸術・文化のまち *文化水準が高いまち	*文化会館に出かけやすい *枚方へ来た人が住みたく、働きたくなるまち	○既存の魅力をPRする、魅力をつくる *外から人を増やすためのPRが必要 *遊園地（ひらパー）がある（テーマパークに厳しい時代に残っているのもっとPRに活用） *名所旧跡の観光、定期巡回マイクロバスなどの運行 *自然環境の保全対策、防犯・防災対策、都市としての基幹インフラ整備、総合文化施設の早期建設 *生涯学習市民センターの充実、図書館の充実 *枚方市のプロモーションムービーを制作 *ブランド化（ネーミング、まちなみ）
わくわくするまち *自己実現ができるまち *クリエイティブなまち	*人が減らないように良いものをPR、魅力づくり【安全安心、基幹インフラ、みどり、駅前整備、待機児童0、待機特養0、生き生き学べる、歴史文化芸術】 *働いている人が休みの時にちよつと出かけていく場所がほしい *PTA活動への積極的な参加 *市立の施設を使うルールを市民が使いやすいように改善する。土、日に公共サービスが使いやすいように（ソフト面） *市民と連携した活動が必要（ゴミ問題など） *国際色を活かす	○枚方出身の芸能人を活用したPR ○若い人の集まる場が必要 *出会いの場、口コミ
豊かな自然、住みやすい住環境、安全安心に暮らせるまち 歴史文化芸術に恵まれたまち 少子高齢化対策を先進するまち 全ての市民が生きがいをもって学べるまち	*大学と校区コミュニティの連携	○45のコミュニティ協議会が活発で活動の場があるまちをつくる *45校区コミュニティ協議会の格差をなくす *校区の公園の運営をコミュニティ協議会にまかせて、市民が楽しむ場づくり（小学校だけでなく公園、会館など） *遠くに出かけにくい人が楽しめる場を近くでつくる *事例：高槻ジャズ→継続できるように行政の支援、市民の気持ちをサポート
大学が多い学園都市 *大学を生かし若い人が集る	*若い人が少ない、高齢化している→大学生も参加しにくい *校区コミュニティ活動が十分でなく格差もある	
45のコミュニティ協議会が活発なまち		

話し合いの要点

- 今後、枚方市が、「市民の提案が実現できるまち」「安心・安全なまち」「芸術・文化のまち」「わくわくするまち」「豊かな自然、歴史文化芸術、少子高齢化対策、生きがいをもって学べるなど暮らしやすいまち」「大学が多い学園都市」「45のコミュニティ協議会が活発なまち」と言われるようになったらいいとの意見が出された。
- 市民の提案が実現できるまちについては、ワークショップなど市民の声を聞く場の充実を図るとともに、市民投稿型のホームページやツイッターなどで市民の情報を取り込むことなどが重要との意見が出された。
- 安全安心、芸術文化、豊かな自然、市民が生きがいをもって学べるといったまちに向けては、外から人を増やすために、既存の良いものをPRしていくべきとの意見があった。
- コミュニティ協議会が活発なまちに向けては、団体の高齢化・若者の参加が課題であり、校区の公園や会館の運営を団体に任せ、市民が楽しむ場づくりに繋げていけばとの意見が出された。
- 枚方の魅力を知る、伝え広めるためには、WEB・SNS等を活用し、行政情報のリアルタイムの発信や市民からの発信・口コミを活用することのほか、コミュニティ協議会ごとの情報発信、枚方出身の芸能人を活用したPRなどが重要との意見が出された。



※上段左からA班・B班、下段左C班・D班のワークショップの発表内容

ふりかえりシートより

主な意見・感想を紹介します。

【意見・感想】

- まとめとなる今回のワークショップでは、みんなで話し合う雰囲気があり、焦点を一つに決めて重点的に話し合いができてよかった。
- 自分の知らないことを話し合うことは、とても理解が深まるので、ワークショップ等の機会は重要だと思った。
- セールスポイントがしぼれず難しい議題だった。
- いろいろな生活背景を持つ方と意見交換ができるのは有意義だった。
- 道路や駅前などの花壇の植え替えに際して、花のリサイクルを考えてほしい。
- 多くの知識を持っている参加者がいるのはすごい。その知識量が良い循環を生めば良い結果につながると思う。
- 枚方市の魅力発信の単位として、「コミュニティの充実」の話が印象に残った。
- 枚方市はどう見ても特色が見つけない。市外から枚方市へ来た人が特色を感じられるようなまちにしたい。
- 今以上の住環境の向上、安全な道づくりを。

- 市民からの声について、直接顔を見ながら話し合える機会などがあることで、市民と行政との距離がもっと近くなれば良いと思う。
- 世代間交流についての議論が活発にできた。
- 情報発信の重要性を再認識した。
- 校区コミュニティを活用し、校区の公園を音楽コンサート会場にするなど、地域に身近な活動を支援してほしい。
- どういったまちが魅力的かは個人の意識の持ちようだと思うが、市民一人ひとりの意識を上げることが一番難しく大切なことだと思う。
- このワークショップが単なる意見出しに終わらないようにしてほしい。
- 次回の報告書のまとめ、市長との懇談を楽しみにしている。
- 年代が偏らず、市民全体の声が聴ける機会がまたあるとよい。

【編集・発行】枚方市 政策企画部企画課

TEL：841-1254（直通）

FAX：846-5341

Email：kikaku@city.hirakata.osaka.jp